

臨時列車をみんなでお出迎え

「只見線全線運転再開3周年記念号」運行

只見線全線運転再開3周年を迎えた10月1日に、団体臨時列車「只見線全線運転再開3周年記念号」のキハ110系レトロラッピング車両が、JR只見線会津若松駅から只見駅間を走りました。

当日の只見駅には町民や只見線ファンが集まり、お出迎え時には只見保育所の子どもたちが、お見送り時には只見小の児童が乗客に向けて手を振りました。乗客の皆さんは、子どもたちの手を振る姿に、手を振り返したり、写真を撮ったりするなど、只見線沿線住民の温かさを感じた3周年となりました。



▲お出迎えをした只見保育所の子どもたち

町議員として町政の発展に貢献

故 長谷川達海さんに「旭日単光章」伝達



▲勲記、勲章を受取った清之さん(中央左)と満枝さん(中央右)

元只見町議会議員で今年7月に死去した長谷川達海さんへの旭日単光章の伝達式が、10月7日に自宅で行われました。

伝達式には、妻の満枝さんと次男の清之さんが出席し、南会津地方振興局の和田局長から、勲記と勲章が手渡され、満枝さんは「(達海さんが)叙勲受章を喜んでいると思う」と話しました。

長谷川達海さんは昭和63年から町議を3期務め、只見町の発展に貢献されました。

一緒につくる・食べる楽しさを学ぶ

「親子料理教室」実施

「親子料理教室」が10月9日に只見保育所で行われ、只見保育所、ぶなのもりこども園の園児と保護者らが参加しました。

今年度の料理教室は未満児クラスも実施され、ふたば・つくし組は、給食で出されるすいとん汁の食材の皮むきなどを行いました。以上児クラスの子どもたちは、同日夕方から開催の秋まつりで振舞われるカレーライスを作りました。

ママやパパ、おじいちゃん、おばあちゃんらと一緒に料理を作る子どもたちの笑顔溢れる1日となりました。



▲お家の人と食材の皮むきをする子どもたち

町内小中学校の児童生徒が学習の成果などを発表

町内小中学校学習発表会・文化祭 開催

町内3小学校の学習発表会は10月11日に各小学校で行われました。また只見中学校文化祭「紅葉祭」は19日に開催されました。

小学校の学習発表会では、体育や音楽の授業を通して学んだことを劇や演奏の形を通して発表しました。

中学校の文化祭「紅葉祭」では、英語弁論大会や総合的な学習の時間で学んだことの発表、有志生徒による発表が行われました。



▲明和小学校学習発表会の様子



▲只見中学校「紅葉祭」の様子

景色を楽しみながら、タスキを繋ぐ 只見町駅伝競走大会

「第59回只見町駅伝競走大会」は10月12日に開催され、会津若松市内の中学校など町内外から33チームが参加しました。今年は、町下庁舎前をスタート、只見駅前広場で折り返し、町下庁舎前でタスキを繋ぐ、1区あたり約2.2kmの周回コース（1区・6区は折り返し地点がスミタフォトニクス前で約2.6km）が設定され、総距離約14kmとなりました。

只見中学校3年生の目黒佑乃心さんと角田杏さんが開会式で選手宣誓を行い、午前9時30分にスタートの号砲が鳴らされると、選手が一斉に町下庁舎前をスタートしました。

各部門1位

部 門	部門1位チーム名
中学生男子	若松四中 駅伝部
中学生女子	只見中 駅伝部
一般男子	Runべ
男女混成	会津中央病院
一般女子	只見うるわし☆レディース



▲タスキを繋ぐ選手たち

少年剣士が竹刀を交える 「河井継之助杯」開催

只見町で最後を迎えた河井継之助の名を冠する剣道大会「第9回河井継之助杯只見剣道大会」が、10月13日に町民体育館を会場に開催されました。スポーツ少年団の保護者などが中心となり運営され、今回開催で9回目を迎えた本大会は、年々参加チームが増えており、会津地区や本宮市からの参加者を含む町内外約100人の少年剣士が日ごろの稽古の成果を競いました。

また、各団体の6年生は、試合後に只見町河井継之助記念館を見学し、戊辰戦争の歴史や河井継之助の生き方にも触れながら、剣道を通じて交流と学びを深めました。



▲間合いをはかり、打ち込む選手

和やかな雰囲気で親睦プレー 「只見町民親善ゴルフ大会」開催



▲緊張が高まるパッティングの瞬間を見守る皆さん

「只見町民親善ゴルフ大会」は、10月19日に会津高原たかつえカントリークラブで開催されました。中央公民館の主催で行われた本大会には、20代から70代まで幅広い世代が参加しました。当初40人だった申込枠を大きく上回り、約1.5倍となる62人が参加し、只見町内におけるゴルフ熱の高さが感じられました。

大会中は、終始和やかな雰囲気プレーを楽しみながら世代を超えた交流を楽しみました。

なお、結果は、優勝・横田雅則さん(大倉)、準優勝・河原田友成さん(只見)、3位・原田岩夫さん(黒谷)でした。

チーム一丸となり戦い抜きました 市町村対抗県野球・ソフトボール 結果報告会

市町村対抗福島県軟式野球及びソフトボールの只見町チームの結果報告会が10月23日に役場町下庁舎で行われました。

軟式野球チームは、1回戦の大玉村との試合で延長9回タイブレークの末に敗れました。

ソフトボールチームは、初戦の広野町と2回戦の相馬市に勝利しましたが、3回戦の二本松市に惜敗しました。

報告を受けた町長は「出場選手が町の代表として力を尽くし戦ったこと、また選手を支えた家族や職場、関係者の皆様に感謝したい」と述べました。



▲結果や来年度への課題、抱負を報告する両チーム

只見町の新米を味わう 「只見米フェス」 開催

只見米ブランド協議会主催の「只見米フェス」が10月25日に開催されました。

会場では、只見産米5銘柄食べ比べや、ただみ農家の嫁俱樂部によるつゆもちなどの提供が行われました。他にも只見高校2年生の総合的な探究の時間の新名物開発班、食アレルギー班による「米粉のスコーン」や「米粉の唐揚げ」など只見産米を活用した食品開発の試食が行われました。

また、農家有志によるバンド演奏などが行われ、来場者を楽しませました。



▲新米や米を原材料とした産品を味わう来場者で賑わう会場

この地で暮らす を見つめ直す

「只見町地域福祉講演会」開催

只見町地域福祉講演会は、10月12日に只見公民館で開催され、約90人が聴講しました。講師にNPO法人「どさんこ海外保健協力会」代表の樫戸健次郎さんを迎え、「この地で最後まで暮らしたい～北海道の経験から～」をテーマに講演が行われました。

樫戸さんは、現在活動しているネパールや、以前勤務されていた北海道での経験を交えながら、只見町で暮らし続けるために大切なことを解説されました。食の確保ができることや仕事をする（続ける）こと、保健、医療、福祉の連携などが重要であることを説き、また地域全体で支え合うことの意義を語りました。



▲自身の経験から、地域福祉について講演した樫戸さん

デジタルで発信 八十里越圏域の観光

「八十里越街道観光セミナー」開催

国道289号八十里越街道の開通を令和8年秋から令和9年夏に控え、「八十里越街道観光セミナー」が9月30日に季の郷湯ら里で開催されました。観光庁観光カリスマの山田桂一郎さんが会場でコーディネーターを務め、株式会社ユニットティ代表の永山卓也さんがオンラインで講師を務めました。

新潟県三条市、南会津町、只見町などに事業所を構える事業者らが参加し、開通後を見据えた地域の魅力発信や観光地づくりについて学びました。

永山さんは、グーグルビジネスプロフィールの整備や口コミの重要性を挙げ、デジタルを活用した情報発信力強化の必要性を説きました。



▲オンラインでのセミナーの様子